

企画部

長居障がい者スポーツセンターと共催という形で、ボッチャの技術向上を目指し、スポーツ教室を実施することになりました。

スポーツ教室での指導や感染症対策の講習を受け、スポーツ教室の受講者と共にボッチャ競技を行いました。



スポーツ教室（ボッチャ）開催

企画部長 栄徳 美沙季

コロナ禍の中、皆様どのようにお過ごしでしょうか。

今回、長居障がい者スポーツセンターにて、スポーツ教室を実施しました。コロナ禍での試みとして、教室前に zoom を使ったオンラインの事前研修を実施しました。

事前研修では、教室開催にあたり日本パラスポーツ協会の新型コロナウイルス感染症対策を参考に、感染防止拡大の対応・対策について研修、ボッチャについての研修の二部構成でおこないました。初めてのオンライン研修で「画面共有ができない」「ミュートが外れない」などハプニングもありましたが、無事終わることが出来ました。皆様ご協力ありがとうございました。

事前研修後、待ちに待ったスポーツ教室。スポーツ教室には 12 名の受講者に参加して頂き、ボッチャの練習をしました。指導員も全国障害者スポーツ大会のルールや指導方法など情報を共有しながら、受講者の一人ひとりが目標をもって取り組めるように協力しておこないました。

教室の中では、東京パラリンピックボッチャ個人で金メダルを獲得した杉村選手の得意技「スギムライジング」にみんなで挑戦をしてとても盛り上がりました。

教室終了後には、「もっと上手になりたい」「楽しかった」「全スポに行きたい」など受講者の方から声を頂き、とてもうれしかったです。

コロナ禍でなかなか活動ができませんでしたが、感染対策をおこないながら、安全に教室が終了できたこと、本当によかったです。

今後指導者協議会として、指導員の活動現場が広がっていくようにいろいろな企画を考えていこうと思います。みなさまと一緒に障がい者スポーツの理解を深めながら、地域でも障がい者スポーツの普及が進んでいける環境を作っていければと思っています。

今度ともどうぞよろしくお願い致します。



スポーツ教室（ボッチャ）
受講者と指導者の様子

大阪障がい者スポーツ指導者協議会

協議会だより

編集・発行 大阪障がい者スポーツ指導者協議会 広報部

令和 4 年 1 月 25 日 第 85 号

<http://osaka-adspo.org/>

全国障害者スポーツ大会は、「第 19 回いきいき茨城ゆめ大会（台風により中止）、第 20 回燃ゆる感動かごしま大会（開催延期）、第 21 回三重とこわか大会（新型コロナウイルス感染の急拡大により中止）」*と、3 年連続行うことができませんでした。大会を目指して頑張ってきた選手の皆さんや、障がい者スポーツに関わってきた指導者の皆さんも悔しい思いをされたと思います。

これからも、まずは健康に留意し、感染防止に心がけ活動していきましょう。

*日本パラスポーツ協会ホームページより

ボランティアに行ってきました

第 21 回全国障害者スポーツ大会 大阪市代表選手候補選考会 ボッチャの部

松浦 秀明

全国障害者スポーツ大会へのボッチャ大阪市代表を選考するため、令和 3 年 6 月 26 日(土)大阪市長居障がい者スポーツセンターにて、選手候補選考会が開催されその審判補助員として協議会から 7 名が派遣されました。その他は、審判員 7 名(大阪ボッチャ協会)、補助員 15 名(大阪国際大学)が選考会をサポートしました。

選考会は体育館で 10 時 30 分から 14 時まで行われ、座位の部 7 名、立位の部 3 名が分かれ、座位は予選リーグと決勝トーナメント、立位は決勝リーグを 1 試合 2 エンドマッチで戦い、順位を決定しました。

選考会ではコロナ禍の中、感染症対策を万全にして競技が開催されました。

選手の皆さんは、コロナ禍でなかなか練習できない状況が想像されましたが、接戦が繰り広げられました。審判員の中にパラリンピックの主・副審をされる方がおられ、さながらミニパラリンピックを見ているようでした。

審判補助員の役割は、副審として違反行為(ラインを踏む、ボックスの外に足や補装具が接地した状態で投球する)の確認、選手の誘導、タイム計測・得点表示を行いました。

私も久しぶりの派遣(ボランティア)でしたので、緊張しながら活動させていただきました。早くコロナが落ち着き練習会や競技会が、自由に開催され、活動ができればと思いました。



BOCCIA





鈴木

令和2年から会長をさせて頂いています。お時間を取って頂きありがとうございます。

指導者協議会として会員 1700 人ということは組織的にすごい数だと思います。ただ 1700 人の中には、「指導者の資格を取るだけ」、もしくは「ボランティアでいいよ」、「もっとボランティア以外にやりたい」、「指導者として高みを目指したい」というような方もおられます。

色々なニーズを把握する前に、「何がしたいですか？」ということも聞きながらやっていますが、今後まだまだ人が増えていく可能性もあります。そういう人が増えて巨大化していく中で、長居や舞洲から派遣やボランティアの募集依頼を受け、会員さんにお知らせをしています。



中島

長居障がい者スポーツセンター館長の中島です。どうぞよろしくをお願いします。

長居で勤務する前は、大阪市の障がい者施策部長として、障がい者福祉業務全般を担当していましたので、長居の取組や障がい者スポーツ振興について理解しているつもりでした。

しかし、長居で勤務するようになり、利用されている方、ボランティアの方、そして大阪障がい者スポーツ指導者協議会の皆さんとお会いする機会が増えたことで、多くの方々の支えがあって事業が実施できていることを改めて知ることができ、皆さんとともに障がい者スポーツの取組を進めていかなければという思いが強くなってきました。

障がい者スポーツは、私が市役所で担当していた頃と比べて、いろんな方々に関わっていただく機会が増えています。国も「ささえる人を増やしていく方針」を掲げています。「ささえる人」を増やしていくことによって、障がい者スポーツがますます発展していくと思います。指導者協議会の皆さんに、講習会や研修を通じて障がい者スポーツ指導員の資格取得やスキルアップをしていただきながら、障がい者スポーツ振興の様々な事業に関わっていただき、支えていただいただくことが、今後、ますます重要になってくると思っています。

大阪市の障がい者スポーツ振興事業は、市役所の職員だけでは到底できません。スポーツセンターの指導員とともに、協議会の皆さんの力もお借りしながら広げていきたいと強く思っています。これからも、いろいろな事業に協力・連携いただきながら、共に進めて行きたいと思っています。



鈴木

1700 人の中で、確実に活動のできる人はどれ位いるのかということで協議会では、①ボランティア情報、②研修会の情報、③協議会日より、というふうに分け情報提供を行っています。その



ざっくばらんにお話しました

大阪市長居障がい者スポーツセンター
障がい者スポーツ振興部部长 兼 館長

中島 進 さん

大阪障がい者スポーツ
指導者協議会

会長 鈴木 光一

鈴木会長の挨拶を兼ねて、今後の大阪障がい者スポーツ指導者協議会の活動に関し意見交換をしました。

中で活動できる人が約 400 人弱おられます。この方々は逆に言うと、活動意欲があるのに情報等も含め協議会から渡せるものが少ない状況です。だから協議会としても、何かしら考えていきたいと思っています。

障がい者スポーツに関係する組織団体、スポーツ競技ごとに団体があると思いますが、それらをひっくるめた団体と言えば、協議会ぐらいしかないのでは思うのですが…。公のところ以外で、民間的にありますか？



中島

私の理解する限りですが、障がい者スポーツの競技団体を除けば、まだまだ組織として成り立っていないように思います。



鈴木

唯一無二とするならば、当然、協議会が動いていなければ大阪の障がい者スポーツの発展というか、これから先の未来を、どう考えていけばいいのかと言うところで、改めて皆さんに相談させていただき一緒に考えながら前に進めさせていただけたらと思います。



中島

活動の場を多くの方々と一緒に作っていく。その活動の場の広がり、障がい者スポーツの場の広がりにつながる、それが益々、障がいのある人がスポーツする機会、スポーツをする人が増えていく。そして、協議会の皆さんの活動の場も広がっていく。こうした好循環を作りながら、相乗効果によって「する人・みる人・ささえる人」が増え、障がい者スポーツ全体の裾野がより広がってほしいと思っています。

指定管理者として長居と舞洲の両障がい者スポーツセンターの施設の管理運営が主な業務ではありますが、それに加えて、大阪市から求められているのは、地域でのスポーツの取組を進めていくため、その拠点となるような施設運営です。両センターに来ていただいて、スポーツを楽しみ、自分らしい暮らし、自立した生活を送っていただく、それが両センターの大きな目的ですが、それに加えて、地域の中でもスポーツを楽しむことができるような環境づくり、地域でスポーツイベントを企画する人、活動する人等、ささえる人を増やしていくことも、大きな課題だと思っています。それが、スポーツをする人が増えることに繋がって

いくことになると思います。

協議会の皆さんの活動の場が広がれば、活動の幅や可能性も増え、スキルも上がると思います。皆さんの力が十分発揮できるよう、これからも相談させていただきながら、障がい者スポーツを広げていくことが大事だと思っています。



鈴木

ところで、長居障がい者スポーツセンターにとって地域というのはどのようなものですか？



中島

「地域」をどう捉えるかは難しいですが、区単位として、区役所や各区社会福祉協議会、各区のスポーツ推進委員の方々、障がい者団体等が中心となって、区民センターや区のスポーツセンター等と障がい者スポーツセンターが連携し、指導者協議会の協力を得ながら、障がいのある人がスポーツを楽しめるよう取り組んでいます。まだ各区、年1回か2回の取り組みですが、こうした取り組みを契機に関わっていただく方が増え、地域の中で障がい者スポーツの機運が高まればと思います。ただ、地域でも取り組みたいが、場所がない、支援する人がいない、スポーツ用具、例えば、ポッチャをしたくても用具がないといった声があります。そういった課題にも、障がい者スポーツセンターが関わりながら、一つ一つのつながりが徐々に障がい者スポーツの広がりにつながってければと思っています。ひとつひとつの地域での取り組みに関わりながら、地域ひいては、大阪市全域で障がい者スポーツが広がっていければと思っています。



鈴木

大阪市 24 区に、障がい者スポーツを出前的にされていましたが、それはどういう仕組みでやっておられるのですか？



中島

「仕組み」としては、地域でのスポーツ活動の基盤づくりを目的に、長居にある「振興室」が中心となって、各区で「障がい者スポーツ・レクリエーションひろば」を行っています。各区の関係機関や障がい者団体等から相談を受けて、指導員が地域に出向き、助言を行ったり、スポーツ用具の貸し出しや使い方の指導もしています。助言だけの場合もあれば、企画や運営に関わる場合もあります。



また、学校からの相談に対しても同様に、指導員が出向いたり、用具の貸し出し等も行っていきます。ただ、職員数にも限界もありますので、一時期に集中しないように年間を通じてバランスを取りながらの対応をしています。



鈴木

協議会会員の中にも、頑張って地域でやっておられる方もいます。協議会として関わられるようなことがあったり、また、具体的に提案出来るような内容があれば良いのかなと思います。



中島

私の方から、指導者協議会と、地域や区役所との関係について少し伺いたいのですが、例えば、区のイベントへの協力依頼があるのか、指導者協議会と区役所の関わりについてはどうでしょうか？



鈴木

今のところ区役所との関わりはないですね。大阪市の場合 24 区が 1 つにまとまる中で、各区役所がいろんなことをやっています。

福祉局の方から地域のためにやるような、いろんなことをやって、行政として障がい者に対して、どういうことをやってるのか、スポーツのことも含めて、考えられていますよね。

各区には、1 区に一つスポーツセンターが作られて指定管理になっていますけど、そういうところではどういうことを考えているのか指定管理で運営していたら、障がい者スポーツって言うのがそれぞれ区によって温度差がないように、均一になっていければと思います。

大阪障がい者スポーツ指導者協議会は、府とも市ともオール大阪で考えさせてもらっています。地域特性があるので一概に言えないと思いますが、同じようなことで考えて行かないと。そして想いを伝えてやれることはやっていきたいと思っています。



中島

大阪市の障がい者スポーツの充実に向けて、これからも、相談させていただくことがあると思います。よろしくをお願いします。



鈴木

是非そうしていただければと思います。様々な場面で、関わらせていただけたらと思います。ありがとうございます。

〈編集後記〉

指導者協議会の今後の活動内容に関して、ボランティア依頼の対応だけでなく、協議会独自にどのような活動ができるのかということ踏まえ、ともに考えていければと思いました。

